

●特集●

'93アルペンスキー

世界選手権盛岡・雫石大会



▲ゴールエリアのスタンドに詰め掛けた大観衆。彼らが世界のトップレーサーと共に見たものは……

2月14日、数々の感動と語り継がれるだろう多くのドラマを残し、'93アルペンスキー世界選手権盛岡・雫石大会が閉幕した。

アジアで初めて開催されたこの大会には、前々回のアメリカでの大会と同じく史上最多の42の国と

地域から選手団が参加し、大会関係者は約7,500人、期間中会場を訪れた入場者数は26万人を超えた。

世界中の国々には、レースの模様や人々の交流、大会運営に奮闘する実行委員会の活躍が伝えられ、岩手の大地から発信される情

報に世界中が注目した。

オリンピックに次ぐこの世界選手権大会を経験したこと、成し遂げたことで岩手の人々が得た財産の価値は計り知れない。今回の特集では、世界アルペンを振り返る。



▲スキー競技は時速100キロを超えるスピードで旗門すれすれに滑り降りる（女子大回転）

極限の迫力が 大観衆を魅了した

100分の1秒を争うアルペンスキーは、技術、体力、そして精神面での強さを競い合う競技でもある。世界一の栄誉をかけたトップレーサーたちの極限への挑戦は、驚きと感動体験となって、私たちの心にしっかりと刻みこまれた。

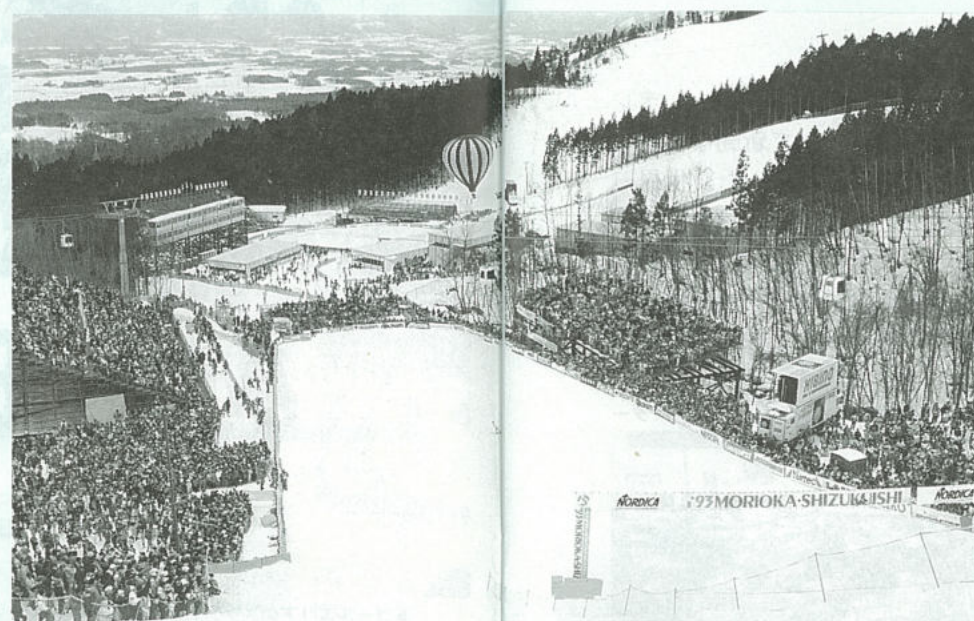
世界アルペンの12日間に会場を訪れた人は、26万人を超えた。ゴール付近はもちろんコース沿いにも、世界の滑りを間近で見ようとする観客がスタート地点まで鈴なりに並び、疾走する選手に声援を送っていた。

世界の舞台にふさわしいこの大会では、数々の新しいドラマが生まれ、多くの観客を魅了した。

11日に行われた男子滑降では、20番スタートのスイスの新鋭、世界選手権初出場のウルス・リーマンが見事栄冠を勝ち取り、男子回

転では、ノルウェーの若きエース・チューティル・アンドレ・オーモットが優勝候補最有力のマーク・ジラルデリをわずか100分の4秒差で下し、今大会2冠を獲得した。世代交代を強く印象付けた盛岡・雫石大会はアルペン競技史上、新しいページを開いた大会として後世に伝えられるだろう。

「一流を知った人は、見るものをそのレベルで計ることができます。体験するというのがスポーツの世界ではとても重要なことだと思うのです。天候のせいでも十分



▲会場を埋め尽くした大観衆（小高倉山ゴール付近）

には子供たちに見てもらうことはできませんでしたが、彼らが体験したものが将来花開くことになるでしょう」。アルペンスキー組織委員会事務局参事村里敏彰さんは、こう語る。世界の一流選手から子供たちに送られたプレゼントの価値は大きい。



▼気合を込めて豪快なスタート（男子回転）



▲雪上の格闘技と呼ばれる回転競技。ポールをなぎ倒しながら滑る（男子回転、木村公宣選手）



▲入場する選手団を拍手で迎える秋篠宮殿下・同妃殿下

世界がまちにやってきた

スキー競技は国際的なスポーツ。世界選手権大会は、2年に一度、開催地を変えて行われ、一昨年、昨年と雫石スキー場で開催されたワールドカップは世界中の会場を転戦する。雫石スキー場は岩手と世界の交流の場となった。

アジアで初めて開催された盛岡・雫石大会では、ワールドカップの時と同じように日本らしい、そして岩手らしい真心で、世界を迎え入れた。

2月3日、秋篠宮殿下・同妃殿下のご臨席のもと盛岡市アイスアリーナで開かれた開会式では、中野七頭舞や、鹿踊り、さんさ踊りなど郷土色豊かなアトラクションが披露され、会場を埋め尽くした観客、選手は共に県内高校生らの熟演に魅入っていた。

また、7日、10日、13日には盛岡市岩手公園で、「ジパングフェスティバル」・表彰式が行われた。4,000人が詰め掛けた会場は、ボランティアらが持ち寄った飾りろうそく「夢灯り」で飾られ、幻想的な雰囲気の中、競技の入賞者が温かい祝福を受けていた。

表彰式の会場や競技会場、さまざまな場所が、人々のふれあいの

場となった。滑り終えた選手をたたえる人々とそれにこたえる選手らの交流が会場のあちこちで見られた。

今回の大会には、競技関係者約7,500人が盛岡・雫石を訪れた。そして、スキー競技の人気の高いヨーロッパの国々をはじめ全世界

で7億人が今大会を注目し、テレビ、ラジオ、そして新聞などで大会の様子を見つめていた。「世界がまちにやってきた」そして「岩手が世界の舞台に踊り出た」。白銀の世界を舞台に、世界と岩手の距離が一步も二歩も近づいた大会だった。

▼情報の発信基地となったメディアセンター



▲42の国と地域から世界の精鋭が集まった。盛岡市アイスアリーナで行われた開会式

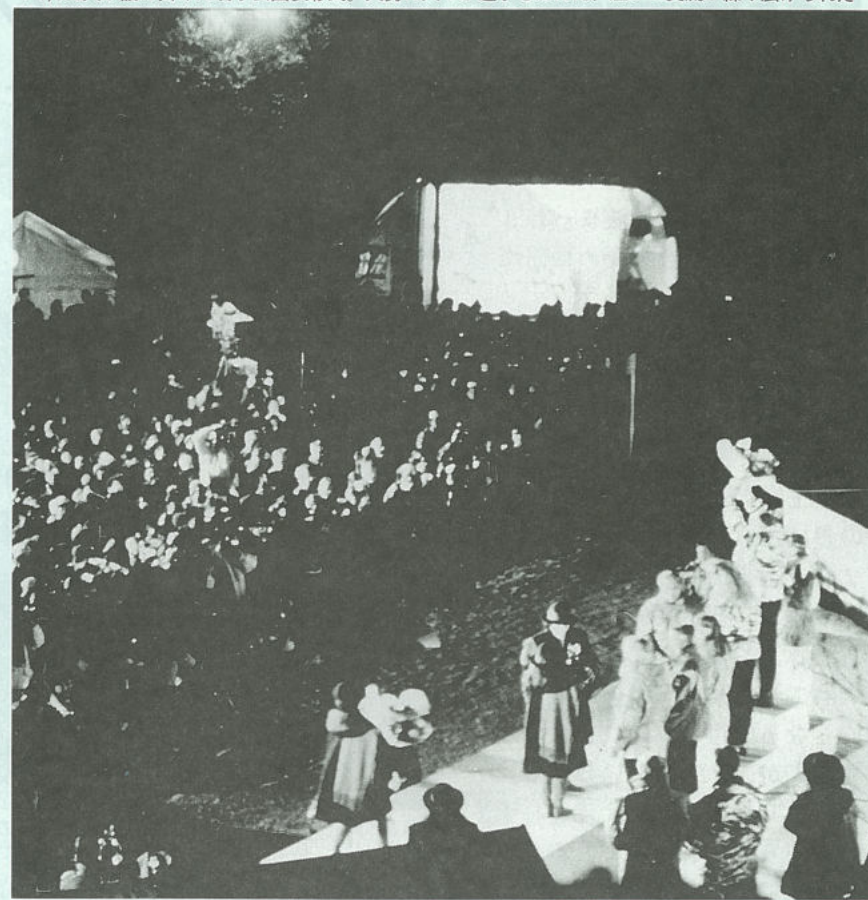


▲サインに応じる選手



▲ほおに国旗でにぎやかな応援

▼4,000人が詰め掛けた岩手公園表彰式。大勢の人々が選手をたたえ、温かい交流が繰り広げられた



▲大勢の観客を前に花たばを掲げ、喜びを表現する選手（小高倉山ゴールエリアでの表彰式）